

## 第 58 回 全国国立大学法人病院検査部会議議事要旨

日 時：平成 23 年 6 月 23 日（木）～ 24 日（金）

会 場：信州大学医学部附属病院（長野県松本市旭 3-1-1）

当番校：信州大学

出席者：各大学の検査部長、技師長等 83 名

（陪席：当番校、次期当番校）

1 日目 平成 23 年 6 月 23 日（木）

イブニングシンポジウム 16：30～17：30

司会 東京大学 矢富 裕 部長

「臨床検査医学教育の実際」

1.信州大学において 信州大学 本田 孝行 部長

信州大学医学部病態解析診断学講座の教育目標を、“ルーチン検査結果解釈能力を、自己学習が行えるレベルにまで引き上げ、生涯教育へ繋げる”と定め、教育技法として、Reversed Clinicopathological Conference (R-CPC)を用い、卒業するまでに 10 症例を検討するようカリキュラムを組んでいる。その取組の実際について発表後質疑応答が行われた。

Q：臨床検査の技術的な側面、実習についてはどのように行っているか。

A：大変重要な事と認識しているが、時間的に実習はグラム染色しか行えていない。今後の課題である。

2.富山大学において 富山大学 北島 勲 部長

富山大学での臨床検査医学教育は、モデル・コア・カリキュラムに準拠して実施されて、とくに 6 年間連続して臨床検査を学習できるカリキュラムになっている。さらに卒後臨床研修プログラムとして、微生物検査と超音波検査の技術指導を実施している。初期臨床研修まで含めると 8 年間通じた臨床検査医学教育を連続して供することが、臨床検査を理解し活用する礎となるために重要である。実例として小型生化学分析機器を使った実習について紹介後質疑応答が行われた。

Q：POCT についての考え方についてどのようにとらえているか？

A：臨床を行っていくうえで必須となってくるもので、学生のうちから基本的な知識を教える必要があると考えている。

Q：小型生化学分析機器は教育用として市販されているか？

A：通常的小型生化学分析機器として市販されているが、教育用としての販売はメーカーと交渉中である。

3.熊本大学において 熊本大学 安東 由喜雄 部長

1 年生に対しては最新医学セミナーを担当し、検査部が行っている先端医療に直結した遺伝子検査、プロテオミクスなど疾患を交えてわかりやすく紹介している。また留学体験記を紹介し、英語の重要性や、海外での研究活動経験の必要性を講義している。3 年生に対しては、秋に行われる約 3 か月間の基礎演習の期間に主に、アミロイドーシスおよびがんの診断や病態解析研究に

関するテーマを与え、トランスレーショナルリサーチ行ってもらっている。4年生からは系統講義を行っている。臨床実習直前セミナーでは、採血実習、検尿・検便について講義、実習を担当している。5年生から約1年、ポリクリが始まる。輸血部と合同で、必要最低限の項目を選び、実習参加型の教育を行っている。5年生の冬からはクリニカル・クラークシップが3週間づつ4クール行われる。指導する側も楽しみながら教育を行っていると発表があり、質疑が行われた。

Q：博士課程15名と多いが、簡単な内訳とこられた動機は？

A：癌関連、FAPを主に行っている。

医学科の学生のみではなく、検査技師教育にも積極的に参加することが必要である。また、医学生の教育に検査技師が参加していくべきである、というまとめであった。

臨床検査部施設見 17:40～18:30

8～10名の6グループに別れ、検査部の見学を行った。

検査部会議懇親会 19:00～20:30

2日目 平成23年6月24日(金) 8:30～

進行係から資料の確認があり、開会宣言の後、信州大学医学部附属病院の天野直二病院長及び本田孝行検査部長から挨拶があった。その後、慣例により議長に当番校の本田部長を提案、了承され議事に入った。引き続き議長から文部科学省、内閣府の陪席者、信州大学の陪席者及び大阪大学の陪席者の紹介が行われた。さらに平成23年度の新任の検査部長4名、技師長8名、医療技術・診療支援部長1名の紹介があった。

第一部 特別講演 8:50～9:40

司会 東京大学 矢富裕 部長

文部科学省高等教育局医学教育課 大学病院支援室

竹本 浩伸 病院第二係長

『大学病院を取り巻く諸課題』

「東日本大震災に関する大学病院の取組」「節電対策について」「大学病院の現状」「国立大学法人評価等」「平成23年度予算等の概要」「チーム医療の推進」「医学部教育等の改善に向けて」「メディカル・イノベーション」「病院機能向上を図るための取組について」などについての講演が行われた。

第二部 シンポジウム1 9:55～12:00

座長：信州大学 本田 孝行 部長

『優れた新卒技師をどのように確保するか』

1.ここ5年間の新卒採用者の実態調査

信州大学 菅野 光俊 臨床検査部技師長

各施設の年齢構成、常勤職員割合、採用者内訳等は様々であった。過去5年間の職員採用者内

訳は、約半数が常勤職以外での採用であった。A職員の採用は内部からの採用が大半を占め、外部からの採用は比較的少ない傾向であった。限られた常勤職の枠を内部の優秀な人材に当て、新卒者を常勤職で募集することが困難である現状が認められた。大学病院検査部に魅力を感じ、常勤職以外でも応募してくれる意欲ある優秀な人材も皆無ではないが、常勤職でないことを理由に大学病院検査部での勤務を敬遠することも考えられる。常勤職で募集できれば人材選択の幅が広がり、優秀な人材の確保に繋がる可能性が高まると考える。

## 2. 国立大学法人として臨床検査技師を常勤にするには

### 【病院経営から】

高知大学 杉浦 哲朗 病院長

処遇改善によってコメディカルスタッフを安定的に確保する為、有期雇用職 13 名とフルタイム非常勤 50 名の計 63 名のうち 20 名の常勤化を行いました。方法として、看護師常勤職員を希望により年俸制にし、その分の常勤職員をコメディカル職員へ振替を行った。退職手当を病院収入から当てている。このことにより、有望な若手コメディカルスタッフの流出を防ぎ、職員定着により充実した教育・指導が行える一方、スタッフも意欲をもって業務遂行でき、医療の質の向上につながるものと期待される。以下の質疑が行われた。

Q：20 名を常勤化するのに病院の持ち出しが 5 千万円かかり、一人当たり 250 万円だが、10 年で承継職員に移ると考えて良いのか？

A：それぞれの部署で退職者が出たら振り替えていく。その枠は病院長に返してもらい、必要な部署に再配分を行う。部署に何名という枠ではない。病院の経営次第では増やすことも可能かもしれない。

Q：途中で 5 千万円を払えなくなることや、承継職員が辞めなければ、退職金が増えていくことについてはどうか？

A：定年を迎える人を把握しており、辞めることがわかっている。診療報酬の改定によるが今のところ大丈夫ではないかと考えている。

### 【大学経営から】

信州大学 渡邊 裕 人事担当理事

「信州大学を例とした国立大学法人職員をめぐる基礎的状况」「大学病院を中心にした非常勤職員に対する考え方」「検査技師の常勤化策の可能性」「法人経営の観点から」について発表後質疑応答が行われた。

Q：承継職員のポスト再配分は大学として可能なのか？

A：病院内では病院長の裁量で可能と思われる。

Q：病院枠で雇用した B 常勤職員を承継職員に雇い入れることは可能か？

A：各大学法人の考え方だと思うが、個人的な意見として可能だと思われる。

### 【公的組織の管理会計から】

内閣府（財政運営基本担当）大西淳也 参事官

「経営諸学における価値観と職務等」「部局最大化原理と全体最適（病院経営）」「ボトルネックの最大活用から収益増大へ」「クリティカルパスからコスト削減へ」「医師等の稼働分析から大学病院の規律づけへ」「大学病院・検査部の組織能力の強化」「管理会計手法等からの整理」「組織能力の強化から外部環境への働きかけへ」について発表後質疑応答が行われた。

Q：大学病院の位置づけが公立、国立、私立大学で違い病院の性格も違ってきて、補助金の出方も違って来るが、同じような経営努力で良いのか？また、文部科学省、厚生労働省等違う省庁にかかるようなことがあり、一律に補助金がもらえない等矛盾があり、矛盾を改修するすべはあるのか？

A：大学病院の業務が担っている業務に関するコストを個別にしっかり出せないところが苦しい。地域医療のために使っているコストをしっかりと明示できれば、本来ならばそれは地域から出してもらふべきものである。最大の問題はコストを明示できないこと。明示できない限り、要求ができない。原価計算を効率的に活用するといいいのではないか。

昼食（弁当） 12：00～13：00

幹事会 12：00～13：00

第三部 13：00～13：30

司会 東京大学 矢富 裕 部長

東北大学長沢技師長より東日本大震災の現況報告とお礼があった。

会務報告、幹事会報告

平成 23 年度人事異動、次期当番校はC地区、大阪大学 日高 洋 部長と報告があった。全国国立大学臨床検査技師会の報告、全国国立大学臨床検査技師長会会則について東京大学横田技師長より報告があった。

次々期当番校選出について、愛媛大学でと提案があり了承された。平成 22 年度会計報告、平成 23 年度予算案について審議され了承された。

表彰および感謝状の贈呈が行われた。

第四部 シンポジウム 2 13：30～15：00

座長：信州大学 本田 孝行 部長

『検査部運営に望むこと』

1.35 歳未満の若手技師から

信州大学 石嶺南生

今回のアンケートを通して、診療・教育・研究に関してそれぞれ様々な問題点が挙がった。向上心を持つ若い技師が多く入職してくる中、若手技師達を育て医療の質を高めるために、教育システムの確立、勉強・研究できる環境作りは国立大学病院における重要な課題の1つであり、アンケートを通し若手技師からもそれを望む声が多く挙がった。また、一番望まれていることは部長・技師長が他科との架け橋になって欲しいという要望であった。チーム医療の重要性が叫ばれている昨今、検査技師としてチーム医療の一端を担う存在になることが必要であると考え。そのために、検査技師だからできる付加価値を臨床側へアピールすることが重要ではないか。一検査技師として活動することには限界があるため、部長・技師長のリードの元、他科の症例検討会に参加していくための足掛かりを作る、臨床科との共同研究を行うなどの取り組みをお願いしたい。

## 2.主任技師から

信州大学 川崎健治

国立大学病院検査部（診療支援部を含む）の①使命、②強みと弱み、③魅力、④人事、⑤連携、⑥部長、技師長に対する要望についてのアンケート結果の発表があり、国立大学病院検査部の臨床検査技師としての使命感は多くの主任技師に浸透していること、国立大学病院検査部の運営に関してさまざまな意見を持っていることがわかった。演者からの提案として、主任技師だけでなく、これから管理者になっていく若手技師を含めて国立大学病院検査部の方向性について議論する場を作る必要がある。年1回は主任技師や若手技師の意見を吸い上げてもらうために代表者が国立大学法人検査部会議に出席して、全国の部長や技師長と議論するようにしたい。私たちの世代は、自己研鑽が最も大事な時であるが、国立大学病院検査部はさらに連携し、問題を先送りにしないで、この世代で考えていく必要があるのではないかと提案がなされた。

## 3.医師から

信州大学 金井信一郎

国立大学病院検査部（診療支援部を含む）の①使命、②運営の状況（教育・研究・検査業務）、③医師の果たすべき使命、④技師が果たすべき使命、⑤部長、技師長に望むことについてのアンケート結果の発表があった。

15:00 閉会

## ◆資料一覧

- ・「第58回全国国立大学法人病院検査部会議」 冊子
- ・ 特別講演「大学病院を取り巻く諸課題」
- ・ シンポジウム1、国立大学法人として臨床検査技師を常勤にするには  
【大学経営から】、【公的組織の管理会計から】
- ・ 「平成23年度検査部会議会務報告議事次第」
- ・ シンポジウム2、検査部運営に望むこと  
アンケート集計結果：「35歳未満の若手技師から」、「主任技師から」、「医師から」